

開院 10 周年記念誌



医療法人ハートセンター
草津ハートセンター

 KUSATSU HEART CENTER

〒525-0014 滋賀県草津市駒井沢町407-1
TEL.077-568-5333 FAX.077-568-5335 (代表)
E-mail info@kusatsu-heartcenter.co.jp
<http://www.kusatsu-heartcenter.co.jp/>

目次

ご挨拶	2
理念	4
10年のあゆみ	6
10年を迎えて	9
10年を振り返って	15
10年の取り組み	29



開院10周年を迎えて

院長（理事長） 許 永勝

この平成28年3月、草津ハートセンターは創立10周年を迎えます。この日を無事迎えることができたのは、当院を支え続けてくれた職員やスタッフの皆さん、応援していただいている近隣医療機関や地域の実地医家の先生方、共に働いた様々な関係者の皆様、そして当院を信頼して受診していただいている患者さん、皆様のおかげだと思います。筆舌に尽くし難い程の感謝の念に堪えません。

開院当初より当院の理念は「最新の医療技術で確かな医療の提供」であり、この理念のもとに我々は邁進してまいりました。しかしながら、この10年間、常に順風満帆というわけにはいきませんでした。特に、平成21年2月、当院を開院した恩師玉井秀男先生が亡くなった時が当院にとっての一番の試練でした。

玉井先生の臨床姿勢は、未知への挑戦する意欲であるPioneer（草分け）の精神、臨戦不退転の決意であるResponsibility（責任感）、そして決して揺るがない果敢な決断力Courage（勇気）でありました。彼のこの臨床姿勢から生まれた独

創的な仕事が、世界のインターベンション領域に与えた影響は計り知れないものであり、彼の訃報を聞いて、欧州・米国をはじめ、世界中の関連学会で追悼セッションが催されたことは決して驚くことではありませんでした。

当然ながら、その玉井先生を失ったことは当院にとって非常に大きな試練となりました。我々は玉井先生を失って気を落としていただけでなく、玉井先生なしでこのハートセンターを続けられるのかという不安に苛まれたのも事実です。突然、院長という立場になった私は、「茫然自失」という言葉を身をもって実感しました。「事实は小説よりも奇なり」とはよく言ったもので、当時は玉井先生を奪った運命を恨んだものです。しかし、私には玉井先生の側に四半世紀一緒にいて玉井先生の仕事を見続け支え続けてきたという自負があり、そして玉井先生が最期に私をベッドサイドに呼び、皆さんの力を借りながらハートセンターの目指す夢をお前に託すと述べられたことが自分を奮い立たせるものでありました。玉井先生を失った後は、玉井先生の提供していた医療レベ

ルを維持して提供し続けることを目標に掲げました。そして、残された職員・スタッフとその目標に向けて専念し続け、様々な方のご協力もあって、この10周年を迎えることができたのだと思います。

であるからこそ、この10周年を迎えることができたのは、先述の通り、皆さまのおかげです。厳しい試練を経験したからこそ、皆さまのご協力の有り難さが身にしみる次第であり、再度御礼を述べさせていただきます。

さて、近年の時代の流れの速さには目をみはるものがあり、年を追う毎に変化のスピードが速くなっているように思います。当然、我々の専門領域であるカテーテルインターベンションの領域も、多分に漏れず、驚くスピードで発展してきております。この発展に乗り遅れることなく、というよりもむしろこの発展をリードし、玉井先生によりこの滋賀の地で根付いたインターベンション技術を更に発展させるのが我々の使命と考えます。また、この専門領域において先駆的な立場である当院は、ライブデモンストラーションをはじめ、学会や症例検討会、地域の勉強会等を通じて、後進の育成を積極的に行い、次世代への継承に引き続き力を入れ、当院の役割を果たしてまいりたいと思います。さらに、国内外にとらわれず医師を含む専門スタッフを派遣し、他院との技術指導、交流を積極的に行い、このインターベンション技術

の普及に腐心してまいりたいと思います。

振り返ればあっという間の10年でしたが、最新の技術、知識を持ち、常に患者様にとって最高レベルの治療を提供することが使命であることを肝に銘じて、これからも当院スタッフ一同、力を合せて全力で取り組んでまいります。次の10年に向けて新たなスタートを切るにあたり、心を新たにし、医療の発展に専心いたす所存でございますので、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理念・基本方針・実践目標

理 念

最新の医療技術で確かな医療を提供します。

基本方針

高度の医療技術で安全な医療

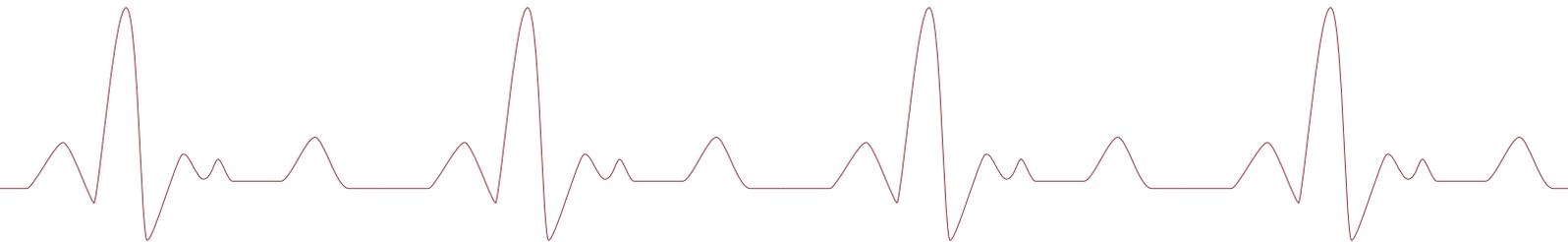
高度の医療技術で効率の良い医療

高度の医療技術で安価な医療

実践目標

心臓血管病診断治療専門施設を志向します。

心臓血管病の低侵襲インターベンション治療を目標とします。



平成18年3月～平成28年2月

◇外来患者数	217,389人
◇入院患者数	8,151人
◇心臓カテーテル検査	6,019例
◇経皮的冠動脈形成術及びステント留置術(PCI)	3,675例
PCIのうち 慢性完全閉塞病変(CTO)	350例
左冠動脈主幹部(LMT)	143例
◇四肢の血管拡張術血栓除去術(PTA)	595例
◇ペースメーカー植込み術	133例
◇心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)	49例
	※平成21年12月開始
◇心臓造影CT検査	9,956件
◇心臓造影MRI検査	596件
	※平成24年10月稼働
◇心臓超音波検査	29,901件

10年のあゆみ

ハートセンター

2006年
(平成18年)

草津ハートセンター 開院
玉井院長 就任

3月9日



3月10日 CAG 1例目、PCI 1例目 施行

3月26日 PTA 1例目 施行

5月17日 ペースメーカー植込み術 1例目 施行

9月22日 CCT2006Live 放映

2007年
(平成19年)

2月22日 医療法人ハートセンター 草津ハートセンターを改組

5月 第1回栄養講座 開催

10月 日本心血管インターベンション学会研修関連施設に認定

2008年
(平成20年)

1月31日 CCT2008Live 放映

6月20日 CTO-club2008Live 放映

2009年
(平成21年)

1月29日 CCT2009Live 放映

2月10日 玉井院長 永眠

2月 許副院長 院長就任

4月 加藤修医師 顧問就任

7月 治験事業 開始

8月 第1回ハートの日 開催
AED (自動体外式除細動器) 寄贈 開始

12月12日 アブレーション 1例目 施行

2010年
(平成22年)

3月 SAS検査 開始

4月 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設に認定

5月 第1回看護週間イベント 開催

6月11日 CTO-club2010Live 放映

7月 院外薬局へ

国内外の出来事

トリノ冬季五輪で荒川静香が金メダル
インドネシア・ジャワ島地震

流行語

イナバウアー 品格

郵便局の民営化
インドネシア・スマトラ島地震

流行語

どげんかせんといかん ハニカミ王子

日本でiPhoneが発売
リーマン・ブラザーズ経営破綻

流行語

グ〜! アラフォー

地方の高速道路が土日祝日千円で乗り放題
オバマ氏米大統領に就任

流行語

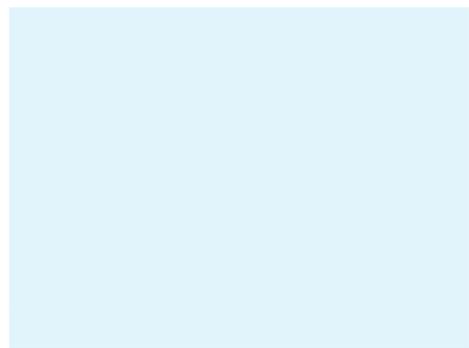
政権交代

小惑星のイトカワから「はやぶさ」が帰還
チリで大地震

流行語

ゲゲゲの

	8月	第2回ハートの日 
2011年 (平成23年)	10月	臨床修練外国人医師の研修受入れ 開始
	2月11日	CRT2011Live 放映
	4月	糖尿病外来 開設
2012年 (平成24年)	8月	第3回ハートの日
	12月3日	総患者数10,000人 到達
	2月6日	CRT2012Live 放映
	4月	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設に認定 更新
	6月8日	中国の湘潭市中心医院と提携
2013年 (平成25年)	8月	第4回ハートの日
	9月	第1回糖尿病教室 開催
	10月	1.5テスラMRI(東芝)装置 Vantage Titan 導入 心臓MRI検査 開始
	11月2日	CCT2012Live 放映
	12月	第1回いきいきハート塾 開催 PSG検査 開始 ベストドクターズ2012-2013 許永勝 選出
	1月	地域連携企画課 発足
2014年 (平成26年)	2月25日	CRT2013Live 放映
	5月	第1回栄養教室 開催
	8月	第5回ハートの日 CT(GE)装置 Optima CT660 更新
	10月17日	CCT2013Live 放映
2015年 (平成27年)	3月	アンギオ(東芝)装置 INFX-8000/N1 稼働
	4月	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設に認定 更新 中国の首都医科大学附属北京中医医院と提携
	5月	台湾の高雄榮民總医院と提携
	8月	第6回ハートの日 下肢静脈瘤外来 開設
	11月	ベストドクターズ2014-2015 許永勝 選出 ベストドクターズ2014-2015 辻貴史 選出
2016年 (平成28年)	3月	第2回エス・ワン・グランプリ 惣菜部門優秀賞受賞(栄養管理科) 土曜日診察休診
	8月	第7回ハートの日
	11月	中国の湖南省人民医院と提携
	3月	中国の上海市宝山区中西医结合医院と提携 草津ハートセンター開院10周年



東日本大震災
英ウィリアム王子ご成婚

流行語

なでしこジャパン

東京スカイツリーがオープン
米アップル社 iPad発売

流行語

ワイルドだろお

富士山が世界文化遺産に登録
中国 四川省地震

流行語

今でしょ! お・も・て・な・し
じぇじぇじぇ 倍返し

消費税8%スタート
富岡製糸場が世界文化遺産に登録
セウォル号沈没

流行語

ダメよ〜ダメダメ 集団的自衛権

マイナンバー
ネパール大地震
バリ同時テロ

流行語

爆買い トリプルスリー



初代院長（理事長）故 玉井 秀男

略 歴

1949年6月3日	愛媛県に生まれる	2006年	草津ハートセンター院長
1974年3月	奈良県立医科大学卒業	2009年2月10日	永眠
1974年4月	滋賀県立成人病センター勤務		
1988年～1996年	滋賀県立成人病センター検査部長	1990年	日本循環器学会認定循環器専門医
1990年～	日本循環器学会認定循環器専門医	1991年	日本心血管インターベンション学会理事
1996年	滋賀県立成人病センター救急部長	1996年	日本心血管インターベンション学会近畿地方会代表幹事
1999年	滋賀医科大学臨床教授	1998年	日本心臓病学会評議員
2000年	滋賀県立成人病センター主任循環器部長兼救急部長	2003年～2006年	日本心血管インターベンション学会理事長
2003年～2006年	滋賀県立成人病センター主任循環器部長兼副院長	2010年	G.O.Hartzler Master Clinical Operator賞

1974年（昭和49年）医師免許取得後滋賀県立成人病センター循環器科に勤務し、1975年より1977年まで京都大学第3内科にて心臓超音波検査を中心に臨床研究員として研修を受けた。その後滋賀県立成人病センターにて7年間心臓超音波検査を担当しながら一般循環器内科の臨床経験を積んだ。1984年より経皮的冠動脈形成術（PTCA）を滋賀県立成人病センターにて開始した。1985年よりPTCAの技術研修のためアメリカ合衆国カンザス州セントルウクス病院のハツラー先生のもとに計4回の短期滞在をして技術の習得に努めた。1986年より急性心筋梗塞に対する再疎通療法としてdirect PTCAを開始した。1989年より京滋奈良インターベンショナルカルディオロジー研究会を発足し現在まで主催している。1990年循環器専門医に認定される。1991年より日本心血管インターベンション学会の理事に就任した。1992年PTCA技術の普及のため第1回中日本PTCAライブを滋賀県立成人病センターにて

主催した。1995年第1回Complex Coronary Intervention Conference(CCIC)を主催した。1996年日本心血管インターベンション学会近畿地方会の代表幹事となる。1998年より日本心臓病学会評議員に選出される。1999年10月には第5回Complex Coronary Intervention Conference(CCIC)を主催し、2000年6月には第9回日本心血管インターベンション学会を主催した。2001年よりComplex Catheter Therapeutics(CCT)を主催し今日に至る。2003年より日本心血管インターベンション学会理事長。1984年より20年間でPTCA10000例を経験した。PTCAにおける研究テーマは慢性完全閉塞病変、左冠動脈主幹部病変、再狭窄予防薬の開発（トラニラスト）、生体吸収性ステントの開発等である。

2006年1月に32年勤務した滋賀県成人病センターを退職し、2006年3月9日に院長として自らの目指す理想の心血管治療を実現するために草津ハートセンターを開院した。

10年を迎えて



KUSATSU HEART CENTER

10年を迎えて

循環器科 部長(理事) 辻 貴史



2006年1月の終わり、玉井秀男先生と許永勝先生と私は、完成したばかりの建物の鍵を受け取り、はやる気持ちを抑えながら、草津ハートセンターに第一歩を踏み入れました。そこは、机も椅子もない静まり返った空間でしたが、患者さんや職員の行き交う光景を思い浮かべながら、夢が実現したことに感激もひとしおでした。

私は、大学卒業後、大学病院での研修を終えて、滋賀県立成人病センターに循環器科研修医として赴任しました。そこで、玉井先生と許先生に出会い、最高レベルのインターベンション治療技術と優しい人柄に惹かれ、インターベンション治療を専門とするようになりました。約10年間、玉井先生と許先生の指導のもと、日々研鑽を積み、術者として標準的な治療ができるようになってきたころ、許先生からハートセンター設立構想に誘われました。公立の大病院では制約が多すぎるため、玉井先生の治療技術を世界中に広めるためには、インターベンション治療に特化した専門病院が必要だと熱く語られ、全くその通りだと共感した私は、迷うことなく賛同し、玉井先生と許

先生とともに、草津ハートセンター設立に携わるようになりました。

建物は完成したものの、開業までの1ヶ月間は想像を絶する忙しさでした。機材の搬入や職員の研修、文書の作成や公的機関への申請など、いままで診療しかしていなかった私にとって、すべてが新しいことでした。これまでは様々な職種の人に支えられて診療してきたのだなあと改めて感謝する一方で、これからはすべて自分たちで作り上げていかないといけないと身が引き締まる思いでした。

2006年3月9日、いよいよ開業の日を迎えました。どれくらいの患者さんが来てくれるのかどうかも分からない状態でのスタートでしたが、心配は杞憂でした。受付開始とともに、前の病院からの患者さんが次々と訪れ、瞬く間に待合室は一杯になりました。この日を心待ちにしておりましたとお祝いの言葉を数多くいただき、胸が熱くなりました。大きなトラブルもなく、初日の診療を終え、ようやく自分たちの病院が出来上がったことを実感できました。病棟とカテ室も順調に稼働し、インターベンション治療も開始するようになって、草津ハートセンターは、世界最高水準の循環器病治療を提供する施設として、大きな一歩を踏み出しました。

草津ハートセンターは、わずか19床の有床診療所ですが、カテ室は2室、マルチスライスCT装置が1台、心臓MRI装置が1台と大病院に匹敵する設備を誇ります。最新の医療技術で確かな技術を提供するという理念を

実現するために、最新装置への入れ替えも順次行っています。ハード面を充実させるとともに、患者さんに効率の良い医療を提供するために、初診患者さんについては、受診当日に冠動脈造影CT検査や心エコー検査などの必要な検査をすべて行い、結果説明を行うように努めています。以前の病院ではやりたくても出来なかったことが、草津ハートセンターで実を結び、患者さんにも好評をいただいています。また、CCTをはじめとする様々な学会のライブデモンストレーションの中継施設に選ばれ、玉井先生の治療技術を世界中に広めるという夢も実現できました。

草津ハートセンターが日本のインターベンション治療の中心になるのではないかと思えるぐらい、忙しいながらも充実した日々を過ごしていましたが、2008年春、玉井先生が体調を崩し、病氣療養に入りました。このような事態は、許先生も私も全く想像もしておらず、かなり動揺しましたが、玉井先生にご自身の治療に専念していただけるよう、また、玉井先生が作り上げた草津ハートセンターを守りぬくために、それまで以上に懸命に頑張りました。まさに草津ハートセンター存亡の危機でしたが、玉井先生はそんな私たちを心配して、加藤修先生を顧問に迎え入れてくださり、世界最高水準の医療を提供するという使命は継続することが出来ました。2009年1月のCCTライブで、玉井先生は病身をおして出演し、困難な症例の治療を成功させました。ライブの後、程なく

して、惜しまれながら帰らぬ人となりましたが、最後のライブのときに玉井先生が残してくれたメッセージはいまでも私の胸の中に輝き続けています。

草津ハートセンターは、今年で10周年を迎えますが、ようやく地域に溶け込んで、存在意義を認めていただけるようになってきたと感じています。滋賀県内外の開業医の先生から患者さんをご紹介いただくことも増えてきましたし、患者さんの口コミで、「心臓が悪かったら草津ハートセンターへ」と勧められて来られる患者さんも多くなりました。私たちが掲げる理念をしっかりと継続して実践していくことで、地域の皆様の健康に貢献していきたいと考えています。

いままで支えて下さったすべての人に感謝の気持ちを忘れずに、日々精進して、草津ハートセンターの一員として誇りを持って、次の10年、20年を頑張っていきたいと思います。

10年を迎えて

事務長 澤田 覚



この度、開院10周年を迎えることができました。これも当医院の患者様をはじめ御尽力いただいております関連会社の皆様並びにスタッフのお蔭と大変感謝しております。ありがとうございます。私は平成24年5月より事務長の職を拝命しました。こうして記念すべき10周年に立ち会えたことを大変嬉しく思っております。

さて、10年前を振り返りますと当時の私は外部のアドバイザーのひとりとして、草津ハートセンターの設立に関わらせていただきました。草津ハートセンターの開設業務は、これまでに経験のない大きなプロジェクトでしたので、正直私にお手伝い出来るかどうか不安でいっぱいでした。しかしながら、時間の許す限り、玉井先生、許先生、辻先生と酒を酌み交わし、本来あるべき医療や草津ハートセンターの将来の姿を聞かせていただくことで、開院に向けての構想が少しずつ具体的になっていったことが昨日のように思い出されます。土地、資金、スタッフ等々解決すべきことはたくさんあり、悩み苦しみました。今となれば良き思い出となりました。お恥ずかしい話ですが、開院パーティーで嬉しさのあまり男泣きしたことを今

でも忘れる事はできません。

開院から10年、年月が過ぎるのは早いものです。この10年は今を生きることに精一杯でした。しかし、記念すべき10周年を迎えられたのは、草津ハートセンターをご支援いただいた皆様によるものと改めて感謝しております。特に開業医の先生方や病院の先生方にはたくさんの患者様をご紹介いただき、大変お世話になっております。ご紹介いただいた先生方にはまだまだご不便やご迷惑をおかけしているかとは思いますが、スタッフ一同、これからも高度な医療技術を安全で効率良くさらには安価で患者様にご提供できるよう心がけますので、今一度ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

これから新たな10年が始まりますが、私は草津ハートセンターにおいてスタッフを見守る親のような立場でいることを心がけています。時には厳しく、時には優しく、スタッフの皆さんには信頼と安心の上に、より良い医療を患者様に提供していただければと考えています。

最後に、これからの医療機関を取り巻く環境は益々厳しくなりますが、患者様に喜ばれる良い医療を続けることにより草津ハートセンターは未来永劫続くものと信じております。私も微力ではありますが、皆様の温かい御支援を賜りながら頑張りたいと思っておりますので、紙面をお借りして恐縮ではありますが、さらなる御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

看護師長 宍戸 尚美



草津ハートセンターは、2006年3月9日に循環器科の専門医療機関として設立し、今年が開院10周年を迎えることができました。

私達は「最新の医療技術で、確かな医療を提供します」という当院の理念を基に、医師をはじめ、看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・管理栄養士・医事職員などの専門職が集結し、外来・病棟・カテーテル室で患者様の対応を行っています。その中で、最も大切にしていることはチームワークです。

当院の特長として、外来は予約制ではなく、受診された日に検査を実施し、その日に説明することができます。このような迅速な診断と対応は、各部門のチームワークが機能してこそ可能なことだと確信しています。

また、入院は、主に心臓カテーテル検査・治療を受けられる患者様、循環器疾患の急性期～慢性期の患者様の対応を行っています。平均入院期間は3日で、短期集中治療をモットーとしています。

早期社会復帰、入退院を繰り返さない医療を行うために、スタッフ間で密な連携をとり、

他病院や施設との連携を円滑に行うこと、患者様中心の医療を実践することが、私達の重要な役割だと考えます。

10周年を迎えた今も初心を忘れず、これからも患者様1人ひとりを大切に、心をこめて、安心・安全・信頼の医療を提供して行きたいと思っています。そして、なによりも患者様に満足していただける、循環器専門の医療チームを目指して行きたいと思っています。

10年を迎えて

循環器科 医長 西尾 壮示



開院10周年おめでとうございます。

私は、初期臨床研修の1年目を大津赤十字病院で、2年目を京大病院で行い、その後、滋賀県立成人病センターに約8年間勤務しておりました。滋賀成人病センターでは、広く循環器領域の基本を学ばせて頂くと共に、インターベンション領域に関しては特に、小菅邦彦先生、岡田正治先生、武田晋作先生などの先生方に様々なことをご指導いただきました。その際、中でも印象深かったのは、玉井先生らが開発された世界初の生体吸収性ステント(Igaki-Tamai stent)の長期臨床成績を、先生方のご指導のもとでまとめさせていただいた事でした。私自身、残念ながら玉井先生と直接お話をさせて頂く機会がありませんでしたが、開発当時の1990年代、ポリマーの生体適合性に関して懐疑的な流れがあった中、生体吸収性ステントの理念を貫き通して開発した玉井先生の強い信念が、当時のアンギオシネやIVUSを見ているだけで伝わってきて、只々「すごい」というのが私の素直な感想でした。そして、結果としてこの仕事が、草津ハートセンターと私を繋げた最初の“縁”であったの

だろうと、今、振り返って思います。

現在、草津ハートセンターで働き始めてから3ヶ月が経とうとしています。異動した当時、ハートセンターの様々なやり方が洗練されているのを見て、軽いカルチャーショックを受けた事が何回かありました。一般的に、ある物事に特化すると、その特化した物事に対して洗練されていくのは、ある意味当然の事ではあるのかもしれませんが…。早く新しい環境でのレベルに達するよう研鑽を積んでいきたいと思えます。

今後、草津ハートセンターの役割というものは、時の流れと共に変遷していくと思えます。先述の通り、ある物事に特化した組織というのは、その物事に対して洗練されるため強い組織になります。しかし一方で、特化することで組織としての多様性を捨てる事にもなり、時の流れと共にやってくる内外の環境の変化に弱い側面もあると思えます。今後当院は、特化した得意分野をさらに発展させていくと共に、内外の変化に対しては、小さい組織であるがゆえに持つ柔軟性を武器として対応していく事が大事なだろうと、漠然ながらに思えます。

私が今後この草津ハートセンターにどれだけ貢献できるかは、現時点では自他ともに未知数だとは思いますが、草津ハートセンターの発展への貢献を通じて、患者さんの立場に立った最善の治療を行うことができるよう、地道に努力していきたいと思えますので、宜しくお願ひ致します。

10年を振り返って



10年を振り返って

看護部

草津ハートセンターは、2006年3月9日に循環器科の専門医療機関として設立し、今年で開院10周年を迎えました。

“もう、10年!”という感じです。そして、自分の年齢も増えたことに驚くのです。

今から10年前、玉井秀男先生・許永勝先生・辻貴史先生が、滋賀県立成人病センターを退職され、循環器系専門施設として草津ハートセンターを設立し、インターベンションに特化した施設で、新たな道を歩んで行かれることを知ったときは、驚くと同時に輝く未来が見えて、とても嬉しく思いました。私も、滋賀県立成人病センターに12年間、手術室や救急特殊病棟に勤務していましたが、患者様を大切に思い、親身になって対応される先生方と共に、草津ハートセンターで働かせていただけることに、迷いはありませんでした。

当時、看護師長の任をお受けしたものの、看護管理者の経験がない私にとって、何をどうすればよいのか考える時間はなく、大池保子看護部長よりご指導をいただきながら進めて行きました。

また、他施設を見学させていただく中で、名古屋ハートセンター 浅井優子看護部長、三重ハートセンター 中村可奈看護部長、高瀬クリニック 高橋美重子看護師長よりご指導をいただき、大変お世話になりました。このようなご縁をきっかけに、今も他施設の先輩方と親しくさせていただいています。これもひとえに、先生方の人脈によるものであり、大変感謝しています。

私が看護師長になって、思い描いたことは、循環器科専門医療機関である草津ハートセンターで、“エキスパートナーズ”を目指すこと。そして、患者様を中心に看護を考え、患者様の“心”に寄り添い、患者様に満足していただける看護を提供することでした。

そのために、個々においてスキルアップ・キャリアアップができるように、当院独自の院内教育プログラムの

作成や院内外の研修の充実を図り、外来・カテ室・病棟のローテーション制を導入することで、看護力が発揮できると考えました。

この10年間で、INE認定看護師(IVR学会・CVIT学会認定;インターベンションエキスパートナーズ)取得者2名。厚労省 保健師・助産師・看護師学校養成所の実習指導者資格の取得者1名。また、看護部は開院当初より、草津ハートセンターの看護をアピールすることは、重要な役割だと考え、皆でCCT・CVIT・滋賀県看護協会の学会発表に取り組みました。このように、私達が草津ハートセンターの看護師として、成長させていただくチャンスをいただいたことも、先生方の多大なご理解とご支援があったからだと、心より感謝しております。

当院のスタッフは、循環器看護を学びたい、極めたいという思いで入職されるため、向上心が高く、スタッフ皆が、“草津ハートセンターの顔”という自覚を常に持ち、患者様に対応するよう心がけています。そして、有難くも患者様やご家族の方より、感謝のお言葉をたくさんいただいております。

小規模ながらも世界レベルで最先端の治療を実践している、草津ハートセンターの一員として誇りを持って、スタッフと共に歩んで行けることは、私にとって幸せなことだと実感しています。

最後に、私が10年間看護師長を続けられた理由は、幾度となく大きな壁にぶつかることがあっても、微力な自分を支えてくれた看護部のスタッフ、“ありがとう”と言ってくれる患者様、厳しくも温かくご指導くださった先生方の存在があったからだと思います。

これから先も、「看護師さんを大切に下さい。」と、言われた故玉井先生のお言葉を忘れず、信頼できる看護部の仲間と共に、“草津ハートセンターの看護”を実践して行きたいと思っております。

宍戸 尚美

臨床検査科

草津ハートセンター10周年おめでとうございます。

現在、臨床検査技師3名中2名が開院当初から10年間草津ハートセンターに務めてきました。

光陰矢のごとしと言いますが月日が経つのは本当に早いものです。開院準備のために検査室に初めて入った時、無造作に超音波検査装置が置かれていただけで机やベッド、仕切りのカーテン等一切なく、ここから準備していかなくてはいけないのかと思ったことを覚えています。開院までの準備期間が短く自分たちで考えて仕事のできる準備を整えました。

開院当初は、超音波装置2台、心電計2台、トレッドミル運動負荷装置1台、24時間ホルター心電計5台、24時間ホルター心電図解析装置1台、肺機能検査装置1台、血圧脈波検査装置1台の検査機器が準備され、臨床検査技師2名で行うには機器数が多いのではないかと、内心不安に思いながらのスタートとなりました。

外来診察が始まり予想はしていましたが、新しい検査機器に慣れていない検査技師2名ではスムーズに検査を廻せるはずもなく、開院してから毎日、慌ただしく外来業務をこなしていました。それに加えて午前の診察と午後の診察の間にはカテーテル業務があり、昼食をゆっくりと食べる時間もなくご飯をかきこんで業務にあたっていました。10年経っても休憩をとれないほど忙しい日も変わらずあります。

入職当時の検査技師2名共、カテーテル業務は当院に勤めるまで関わったことがなく、循環器の専門知識もほとんどなかったので、いくつかの病院に

生理検査、アンギオ業務の見学に行かせてもらいました。病名なども聞いたことはありましたが、実際にどういった病態で起こっているのかを把握出来ていなかったのが開院前に勉強しました。現在でも会話の中でわからない単語が出てくるとすぐに調べたりするようにしています。

開院して2年程経ち外来検査業務も慣れてきました。他部署のスタッフが手一杯の時にはできる業務を手伝ったりしていました。しかし、いつの間にかその中の採血業務が検査技師の業務になりました。「なぜ!?!」と思いつつも業務を行ってききましたが、検査件数が徐々に増えてきてとても検査技師2名では到底こなせる業務量でなくなってきたので検査技師を1名増やすこととなりました。検査技師が3名になっても忙しさは変わらず数年が経ちました。その間に検査機器も増え業務も拡大し、検査技師の人数は増減を繰り返し現在の3名になりました。

気がつけば10年経ち開院当初と比べ簡易無呼吸検査の機器3台、終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査機器1台、24時間ホルター心電計5台が増え、業務としては8年目から開始した下肢静脈瘤外来での下肢静脈エコー検査も加わりました。

ますます忙しくなりましたが、現在の検査業務体制に余裕ができたときには放射線技師が行っているMRI検査にも携わっていき、検査技師の業務を拡大していけたらと考えています。

10周年これは通過点であり、今後より一層院内スタッフ、患者さまに信頼される臨床検査科に務めて行きたいと考えています。

福井 真一

10年を振り返って

放射線科

草津ハートセンター開院10周年おめでとうございます。放射線科として冠動脈造影CTをはじめとする様々な業務に従事して参りました。開院当初、CTはGE社製の32列マルチスライスのみでのスタートでありました。同年の暮れに検査の効率の向上と画質の向上を図る為に、GE社製CTを64列に変更し、同時期に東芝製64列マルチスライスCTを導入。患者様に対し低被曝で高画質な画像を提供できる様、従事してきました。徐々に患者様の数も増え、予約を必要としないCT、検査した日に結果を聞いて頂ける当院独自のシステムが好評とのお声も頂ける様になりました。2012年10月には循環器専門の施設では異例の1.5T MRI装置を導入。施設の制限があり、CT装置を1台失うという結果になりましたが、被曝のない低侵襲な検査ができる事と、非造影冠動脈MRAや心筋負荷perfusion、遅延造影といった検査の幅を広げられる事が、患者様にとって良い選択であると信じ、新たな挑戦を始めました。非造影MRAによる冠動脈評価、負荷perfusionによる心筋虚血診断、遅延造影による心筋梗塞巣評価など、様々な苦労や工夫がありましたが、現在ではCTとMRI、患者様の状態にあわせた検査の選択が可能になりました。10年間を書き記すにあたり、開院当初の苦労を知る人物は現放射線科には居ないため、文面では書ききれないたくさんの壁や困難や衝突があったかと思います。そういった壁や困難

は、患者様に対しよりよい医療を提供したいという個々の考えがあるから存在したものであり、草津ハートセンターの礎といっても過言ではありません。患者様に真摯に向き合ってきたハートセンターの10年を無責任に嬉しく思えたりもします。この先も多くの困難があると思われませんが、これまでの様に、患者様にとって良き選択ができるよう従事して参りたいと思います。院長をはじめとする医療スタッフの皆様に、この場をお借りして感謝致します。

細川 良介

臨床工学科

(はじめに)

開院1年前に現院長の許先生に突然ハートセンター開業の事を聞かされて、事業に参加しないかとお誘いを受けた。当時、私は先生方と同様に県立成人病センターで勤務していたが、特に公務員という立場にこだわりはなく、得意分野での専門施設の開業に関われるのならと、二つ返事で快諾した。

開業までの準備期間は短く、建物も建っていない状況であり、イメージするのは難しい環境の中で準備を進めた。開院の1ヶ月前によく建物が完成し、機材や物品の搬入、スタッフのトレーニングなど毎日が忙しかったのは今でも鮮明に記憶している。

(臨床工学科として)

当院の臨床工学科は開院当初3名でのスタートであったが、2名は臨床経験の無い1年目の技士であった。業務としては、心臓カテーテル業務、ペースメーカー業務、補助循環業務、ME機器管理業務、各種血液浄化などであるが順調に業務の習得を行うことができた。特に心臓カテーテルの業務内容では術者の清潔助手業務など他の施設では習得しにくい専門的な内容も行っている。また、不定期ではあるが不整脈アブレーションも開始されるようになり、今後はさらなる業務習得を目指して日々精進していきたい。

(心臓カテーテル室として)

当院のカテーテル室は、当初カテ室業務の経験が無いスタッフが多かったため、教育やトレーニングなどでは苦勞したが、職種間に隔たりがなかったためチームワークは良く、早い時期に円滑なカテ室の運営が行えるようになった。現在では、他院と比較しても素晴らしいカテ室であると自負できるようになった。

最後に、この10年で6000件を超える検査や治療を行ったが、大きな事故も無く、安全で質の高い医療を患者様に提供できたことは、カテ室に関わるスタッフの尽力の賜物であり感謝申し上げます。

中西 基修

10年を振り返って

栄養管理科

2006年3月初旬、春とはいえ寒さが厳しい日、建設中のハートセンターに足を踏み入れたことをいまでも鮮明に覚えております。

正面玄関は封鎖中で、裏口から一面養生シートに覆われた建物内を進み2階のスタッフルームにて諸先生方を始め師長さんにご挨拶申し上げた事を思い出します。

ご挨拶の後、1階に移動し栄養科(厨房)に案内していただきました。するとその場所は…栄養管理科は入院患者様のお食事を準備することが職務であり、通常は診療科から離れた地下または離れにあることが一般的ですが弊院の場合は少し違いました。厨房は救急入口の前、斜め向かいには放射線科があります。今までいくつかの施設にて栄養士業務を行いましたが診療科と隣接は初めて、明るく真新しい厨房に感激したことを思い出します。

厨房の奥が事務室で、こちらでのエピソードが1つ、事務室の扉をあけると中は蛻の殻、デスクや椅子がまだ発注されていなかったのです。このままでは床で仕事をするようになってしまう…厨房から出て外来方向にウロウロするものの、当時は他の職員にも面識がなく困り果てていると、許先生が「どうしたの?」と優しく声をかけていただき、お忙しい時間を割いて、デスクと椅子の手配をして下さいました。更に「今座る椅子もないでしょう、これ持っていき」と記念ホールの椅子を1脚お貸し下さいました。その椅子の行方はとありますと10年近く経つ現在も栄養科で使用させて頂いています。

瞬間に、内覧会、パーティそして3月9日の開院日を迎え、試行錯誤の上、出来上がった食事を初めに

検査していただいたのは玉井秀男先生。ドキドキしながら院長室にお持ちしました。続いて職員食を2階の食堂に運びます。お祝いの意味を込め、主食はお赤飯を炊き皆で食べた事を思い出します。時は経ち開院1周年、当時は富士産業(株)さんに業務を委託しており、シェフの三島さんから開院当初を思い出せるように、お祝い弁当を作ろうとの提案がありこれをさかえに毎年作ることになりました。一番辛かったのは、玉井先生が亡くなられて間もなく迎えた記念日、院内は重苦しい空気で包まれ、お弁当も中止しようと考えましたが、お腹がいっぱいになれば職員もひと時元気になれるかも?との願いを込めて心をこめて皆で作りました。三島シェフとともに医局におられた許先生、辻先生にお弁当をお届けすると、食事もままならない状態であったと思いますが、先生方は喜んで召し上がって下さいました。職員も完食してくれた事を今もこの時期が来るたび思い出します。患者様のお食事を作り続けてはや10年、お陰様で患者様からの評価も高く、残食が少ない事は私たちの誇りです。パート職員が時折、配膳時に患者様からお褒めのお言葉を頂いたとニコニコして厨房に戻ってきます。私が褒めるよりも何倍も嬉しそうに微笑む姿を見るたびに嬉しい反面患者さんには敵わないと思います。

私ごとですが、ここ数年にわたり栄養教室、ハート塾、糖尿病教室などに関わり管理栄養士として貴重な経験を積ませていただいていること心から感謝しお礼申し上げます。今後とも草津ハートセンターの一員として栄養科一丸となりより良いお食事の提供に尽くしたいと存じます。

丹下 良美

医事課

当院の医事課は、スタッフの経験値やライフスタイルを考慮したなかで、医事、外来および入院クラーク、地域連携などを分担しておこなっています。開院当初は、何をどうしたらいいのか分からず、委託スタッフのお力を借りていましたが、現在では当院スタッフのみで体制がとれるようになりました。私たちは、患者様をはじめ、先生方、多職種、他機関と多く関わる職種として、コミュニケーションを最も大切にしています。そして、患者様が安心してスムーズに検査や治療を受けて頂けるよう、丁寧で穏やかな対応を心がけています。また、ミーティングを開催し、意見交換や情報共有をおこない、先生方より助言をいただきながら、日々の業務改善に努めております。

ここで個人的な話ですが、2013年より看護師である私が医事課へ配属となりました。看護師経験は長くなりましたが、恥ずかしながら医事関連の知識は乏しく、医事課に配属と言われた時には、不安で押しつぶされそうでした。しかし、私よりも医事課メンバーの方が、大いに戸惑い、不安なことでしょう。今でも、自分が医事課として力になれているのか、自問自答の日々です。ただ、自分が無力さにへこみながらも、奮起できているのには理由があります。それは、スタッフに恵まれていることです。配属当初より、彼女たちは笑顔で前向きに接し、私を受け入れてくれました。今では看護師であるのに、他職種のチームに居られることに心強さを感じています。これからは、看護師がいること

が医事課チームの強みとなり、支えになればと願い、なんとか奮起しております。

さて、医事課は女性ばかりのチームです。そして、私以外のメンバーは器量よし、性格よしの自慢のチームです。過去10年の間、結婚・出産などライフスタイルの変容で、スタッフの入れ替わりも多くありました。そのなかで、医事の質を維持向上させていくことは難しい問題があります。しかし、その問題をチームで助け合い、磨き合っていける自慢のチームです。これからも彼女たちは、益々女性として輝いていかれることでしょう。女性が働きやすく、いつまでもキラリと光る、そんな職場を維持することは、今後の課題として取り組んでいきたいと考えます。

最後に、草津ハートセンターはこの10年間、コンパクトを強みとして、あらゆる状況の患者様にも、柔軟でタイムリーに対応しています。最新の診断・治療を提供することに併せ、地域との関わりを深め、ひとりひとりの患者様を大切にしています。それは、許院長をはじめ、辻先生、諸先生方が故玉井院長より大切に引き継がれている、ハートセンターの理念であると考えています。私たち医事課は、その理念を理解し、これからも前向きに柔軟に取り組んでいきたいと考えます。今後も、益々魅力ある草津ハートセンターとして僅かながら花を添えられるよう、努力していきたいと考えます。

山本 裕子

院内の風景





10年の取り組み



10年の取り組み

ハートの日

心臓病・脳卒中の予防制圧を目指す日本心臓財団では、21世紀への明るい健康運動として、『8月10日は健康ハートの日』と制定しました。当院でも、2009年8月10日に「第1回ハートの日」を開催、心臓にまつわる講演・血圧測定・心電図測定・動脈硬化測定・AED(自動体外式除細動器)体験・医療相談・栄養相談・少年少女合唱団によるミニコンサートなどを行ないました。以降、毎年多くの方に参加して頂いています。



ライブデモンストレーション

最新の治療法をより多くの医師が会得できる場をと、ライブデモンストレーション勉強会を開催し、医療技術向上に取り組んでいます。



10年の取り組み

看護週間

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日を「看護の日」、5月12日を含む日曜日から土曜日までの一週間を「看護週間」と制定されました。当院では、看護週間イベントとして患者さまや地域の皆さまの作品展示・講演・看護相談・AED(自動体外式除細動器)講習・試食会などを行なっています。



日付	テーマ
2010/ 5/12~5/15	看護相談／フットケア／AED実演 ／身体測定／心臓病食の試食会
2011/ 5/12~5/14	災害時の対応／AED講習会／健康 ストレッチ体操／試食会
2012/ 5/10~5/12	ストレスチェック／ポスター展示／ お薬相談／AED講習会／試食会

日付	テーマ
2013/ 5/ 9~5/11	手洗いチェック／作品展示／カテー テル治療について／AED講習会／試食会
2014/ 5/ 8~5/10	薬剤師による講演／身体測定／糖 尿病体操／AED講習会／試食会
2015/ 5/14~5/16	看護師による健康相談・身体測定 ／健康体操／AED講習会／試食会

いきいきハート塾

当院職員が地域の皆さまの所に伺い、医療や健康に関する講座を通じて「健康増進」「健康意識の向上」にお役に立てればと、始めた取り組みです。老人会や自治会に伺い楽しくお話させて頂いています。ご高齢の方も多く参加して頂いています。



日付	テーマ
2012/12/3	心臓病の予防と治療
2013/ 1/7	生活習慣病と心臓病
2013/ 1/21	生活習慣病と心臓病
2013/ 3/22	心臓病と動脈硬化
2013/ 4/11	生活習慣病と心血管病
2013/ 5/18	心臓病と動脈硬化
2013/ 6/7	生活習慣病と心血管病
2013/ 6/17	生活習慣病と心臓病
2013/ 7/10	心臓病と動脈硬化
2013/ 8/9	心臓病と動脈硬化
2013/10/21	生活習慣病と心血管病
2013/10/25	心臓病について
2013/11/8	心臓病と動脈硬化
2013/11/14	生活習慣病と心血管病
2013/11/18	生活習慣病と心血管病
2013/11/22	心臓病と動脈硬化
2013/11/24	バランスよく食事を食べるコツ!
2014/ 1/20	心臓病と動脈硬化
2014/ 1/22	心臓病と動脈硬化
2014/ 1/30	生活習慣病と心血管病
2014/ 2/10	心臓病と動脈硬化
2014/ 2/21	バランスよく食事を食べるコツ!
2014/ 3/14	心臓病の予防と治療

日付	テーマ
2014/ 3/20	バランスよく食事を食べるコツ!
2014/ 5/26	心臓病と動脈硬化
2014/ 6/9	バランスのとれた食事について
2014/ 6/15	バランスよく食事を食べるコツ!
2014/ 7/9	バランスのとれた食生活について&減塩のポイント
2014/ 7/18	心臓病と動脈硬化
2014/ 7/19	バランスよく食事を食べるコツ!
2014/10/24	大豆製品のおはなし
2014/10/28	バランスよく食事を食べるコツ!
2014/11/21	バランスよく食事を食べるコツ!
2015/ 1/19	生活習慣ってどんな病気?楽しくラクラク減塩しよう!
2015/ 1/20	生活習慣って何??
2015/ 2/27	バランスよく食事を食べるコツ!
2015/ 3/4	生活習慣ってどんな病気?楽しくラクラク減塩しよう!
2015/ 3/11	認知症って、どんな病気?
2015/ 5/17	元気もりもり、食生活のすすめ
2015/ 9/1	お酢を摂取して健康になろう!!
2015/ 9/2	バランスのとれた食生活について&減塩のポイント
2015/ 9/28	メタボリックシンドロームを予防しよう
2016/ 1/14	大豆のおはなし
2016/ 2/5	バランスのとれた食生活について&減塩のポイント
2016/ 2/9	バランスのとれた食生活について&減塩のポイント
2016/ 2/24	体にいい食材のお話

10年の取り組み

栄養教室

「食育」を目的とし、管理栄養士が「食」の大切さを知って頂けるようにと始めた教室です。毎回テーマを工夫し、食品メーカーの方にも協力して頂きながら年4回開催しています。主に食材についての講義・実験・試食などをおこなっています。参加者の方も次回を楽しみにされています。

「食育」を今後も栄養教室を通じてより多くの人に伝えられるように取り組んでいきたいと思っています。



日付	テーマ
2013/ 5/18	美味しく楽しくメタボ解消
2013/ 9/21	お野菜をもっと食べよう！
2013/11/16	寒い時期を元気に過ごすコツ！
2014/ 2/15	冬太りを解消しよう！
2014/ 6/14	肥満と高血圧を抑制せよ！
2014/ 9/20	大豆の魅力ココにあり

日付	テーマ
2014/11/29	お酢のパワーで健やかに！
2015/ 2/21	ごまの栄養getしよう
2015/ 6/20	乳和食について楽しく美味しく学びましょう
2015/ 9/18	話題のくるみとブルーベリーはいい事づくし
2015/11/20	味噌について学ぼう
2016/ 2/12	乳酸菌の効果&チョコレートの効果

糖尿病教室

糖尿病の悪化および合併症予防を目的とし、日常生活に取り入れられる知識や習慣を提供する場として、糖尿病専門医師と看護師が中心となり年4回開催しています。主に糖尿病に関する講演や、食事指導、ウォーキング大会などをおこなっています。参加者同士の交流の場として、病気に対する思いを共感し、学ぶ機会となっています。



日付	テーマ
2012/ 9/8	糖尿病とは？/血糖値・HbA1cって何？
2013/ 1/5	糖尿病の合併症について/糖尿病のくすりの働きについて
2013/ 4/26	糖尿病と循環器疾患との関係について/動脈硬化とABI検査について/糖尿病患者さんのフットケアについて
2013/ 7/6	糖尿病と歯周病との関係について/血糖値の上昇が遅い食品(低GI食品)を選ぼう/糖尿病患者さんの地震・災害時の備えについて
2013/10/5	運動療法について/草津矢橋帰帆島公園でウォーキング
2014/ 1/11	糖尿病と脳卒中について/サプリメントの併用について/誰でもできるエアロビクス
2014/ 4/5	上手に食べる工夫(バイキング形式の昼食付)/草津ハートセンターの周囲をウォーキング

日付	テーマ
2014/ 7/5	クイズで学ぶ糖尿病教室/室内で簡単な体操
2014/10/4	草津矢橋帰帆島公園でウォーキング/青空教室(運動療法について/低血糖時の対処法)
2015/ 1/17	認知症と糖尿病について/血糖値を測ってみましょう
2015/ 4/4	草津ハートセンターの周囲をウォーキング/お花見教室
2015/ 7/3	みんなで語ろう会/お酒・おやつを上手に楽しむ方法/簡単な筋トレ
2015/10/16	草津ハートセンターの周囲をウォーキング/紅葉教室
2016/ 1/15	美味しく学ぼう!栄養バランス/第6の合併症、歯周病にご注意!

10年の取り組み

院内研修

感染研修会



消防訓練

接遇研修



避難訓練

友好病院の紹介



湘潭市中心医院

1900年創立
 病床数 1800床
 職員数 2329人
 中華人民共和国湖南省湘潭市



首都医科大学附属 北京中医医院

1956年創立
 病床数 565床
 職員数 1293人
 中華人民共和国北京市



高雄榮民總醫院

1990年創立
 病床数 1366床
 職員数 1718人
 台湾高雄市



湖南省人民医院

1912年創立
 病床数 3000床
 職員数 2468人
 中華人民共和国湖南省長沙市



上海市宝山区 中西医結合医院

1956年創立
 病床数 508床
 職員数 918人
 中華人民共和国上海市

技術指導

定期的に友好病院に赴き実技トレーニングを実施し、PCIなどの多くの手技を提供、指導し、現地の医療水準の向上に貢献しております。今後も積極的に海外との医療交流に取り組むことで、同時に日中友好にも貢献できると考えております。



臨床修練外国人医師の研修

1ヶ月～1年間当院に留学し、技術見学、指導を受ける場を提供しております。帰国後、学んだ技術、知識を現地の医療サービス向上ならびに住民の皆様の健康維持に寄与することを願っております。

《臨床修練外国人医師》

名 前	所属病院	所在地
金 洪珍	平谷区医院	中国 北京
徐 仁德	林口長唐医院	台湾 台北
于 慶龍	台南市立医院	台湾 台南
徐 広馬	広西壮族自治区人民医院	中国 広西
黄 浩波	湘潭市中心医院	中国 湖南
胡 笑容	武汉大学付属病院	中国 湖北
戴 健	上海中医葯大学大学附属岳阳医院	中国 上海
范 永臻	湘潭市中心医院	中国 湖南
陳 慧斐	湘潭市中心医院	中国 湖南

名 前	所属病院	所在地
張 竹華	首都医科大学	中国 北京
馬 小峰	南華大学附属南華病院	中国 湖南
蘭 雪峰	内モンゴル科学技術大学 包頭第一附属医院	中国 モンゴル
宣 錦峰	義大医院	台湾 高雄
王 敏	湖南医学院第一附属病院	中国 湖南
倪 崇慶	天津市西青医院	中国 天津
何 晋	湖南省人民医院	中国 湖南
張 宇	湖南省人民医院	中国 湖南
鄧 欣一	台北榮民總医院	台湾 台北



原 著

著 者	文 献 名	発 行	雑 誌 名
玉井 秀男	CTO 2006:成功率向上のためのテクニック CTOを手がける際の心構え	2006.11	Coronary Intervention 2006 Vol.2 No.6
Hsu JT,Tamai H,Kyo E, Tsuji T,Watanabe S.	Traditional antegrade approach versus combined antegrade and retrograde approach in the percutaneous treatment of coronary chronic total occlusions.	2009.1	Catheter Cardiovasc Interv.2009 Oct 1;74(4):555-63.
福井 真一	心エコー図が左房壁在血腫の診断と経過観察に有用 であった1例	2009.9	DIGITAL MEDICINE No.42 心臓の画像 診断 10年の軌跡
許 永勝	順行性アプローチでの Corsair の有効な症例提示		Intervention Letter Case Report Vol.17
Watanabe S,Kyo E, Tsuji T,Ohya H	Combined Treatment of Trans-catheter Coil Embolization and Modified Covered Stent Implantation for Ruptured Saphenous Vein Graft Aneurysm in Patient with Recurrent Congestive Heart Failure	2011.5	Cardiovasc Interv and Ther 2011 May;26:147-152
Hsu JT,Kyo E,Chu CM, Tsuji T,Watanabe S.	Impact of calcification length ratio on the intervention for chronic total occlusions.	2011.7	Int J Cardiol.2011 Jul 15;150(2):135-41.
村上 和男、安藤 洋亮、 細川 良介	経時的なデータ収集と解析によってインターベン ションにおける被ばく線量の低減を実現	2012.3	Advanced Report 「Innova Dose Report」 トライアルインタビュー
許 永勝	特集 ライブデモンストレーションを語る Complex Cardiovascular Therapeutics:CCT	2012.11	Coronary Intervention 2012 Vol.8 No.6
Dai J,Katoh O,Kyo E, Tsuji T,Watanabe,Ohya H	Approach for chronic total occlusion with intravascular ultrasound-guided reverse controlled antegrade and retrograde tracking technique:single center experience.	2013.1	J Interv Cardiol.2013 Oct;26(5):434- 43
Ohya H,Kyo E,Tsuji T, Watanabe S,Katoh O	Impact on Clinical Outcomes of Predilation Using the kissing-balloon Technique for Crossover Stenting in True Coronary Bifurcation	2013.1	Lesions J Invasive Cardiol.2013 Oct;25(10):215-8.
Ohya H,Kyo E,Katoh O	Successful IVUS-guided reentry from iatrogenic coronary arteriovenous fistula related to wire perforation following wiring of a totally occluded vessel	2013.7	J Invasive Cardiol.2013 Jul;25(7):E139-42.
Ohya H,Kyo E,Katoh O	Successful bypass restenting across the struts of an occluded subintimal stent in chronic total occlusion using a retrograde approach.	2013	Catheter Cardiovasc
Dai J, Katoh O, Kyo E, Tsuji T, Watanabe S, Ohya H.	Antegrade approach to stumpless chronic total occlusion of ostial left anterior descending artery: first using a side branch cutting technique.	2014.1	Hellenic J Cardiol. 2014 Jan- Feb;55(1):70-6.
Watanabe S,Kyo E, Tsuji T,Ohya H, Katoh O	Not-ST segment elevation myocardial infarction due to near-lethal spontaneous whole left coronary artery dissection.	2014.3	Int Cardiol. 2014;172(2):e316-7
Dai J, Katoh O, Kyo E, Zhou XJ, Tsuji T, Watanabe S, Ohya H.	Percutaneous intervention in a patient with a single coronary artery arising from the right coronary sinus of valsalva.	2014.9	Hellenic J Cardiol. 2014 Sep- Oct;55(5):427-32.

総 説

著 名	タイトル	発 行	書籍名
許 永勝	Drug-Eluting Stent Part 2 Anchor technique	2006.1	Drug-Eluting Stent Part 2
辻 貴史、玉井 秀男	I PCI 拡張デバイス ステント	2006.7	新 目でみる循環器病シリーズ 20 カテーテルインターベンション
玉井 秀男	〈実践編〉6章 慢性完全閉塞 (CTO) に対する PCI CTO に対する基本的対応法	2007.9	冠動脈疾患のプロフェッション 6 DES の時代の PCI
辻 貴史	〈実践編〉6章 慢性完全閉塞 (CTO) に対する PCI CTO-PCI における anchor balloon technique のすべて	2007.9	冠動脈疾患のプロフェッション 6 DES の時代の PCI
渡邊 哲史、許 永勝	VI 各種病変に対する PCI 手技, 治療戦略 / CTO 高度屈曲の CTO	2008.2	PCI を究める
渡邊 哲史、許 永勝	デバイスの選び方・操作から施行困難例への対策まで 第 2 章 実践 - 手順・コツとトラブル解決法 - 5. トラブルシューティング 4) ステントストラット通過困難	2008.2	確実に身につく PCI の基本とコツ
許 永勝	デバイスの選び方・操作から施行困難例への対策まで 第 3 章 応用 - 手技と成績 - 3. 慢性完全閉塞病変	2008.2	確実に身につく PCI の基本とコツ
許 永勝	バルーンカテーテルの Q & A Anchor balloon technique とは何ですか, コツを教えてください.	2008.4	PCI テクニック これは困ったどうしよう!
渡邊 哲史、許 永勝	バルーンカテーテルの Q & A バルーン通過困難, どうしよう!?	2008.4	PCI テクニック これは困ったどうしよう!
辻 貴史、許 永勝	止血の Q & A クローザーで止血に失敗した場合の対策を教えてください.	2008.4	PCI テクニック これは困ったどうしよう!
辻 貴史	Complex PCI に対する治療戦略	2010.1	循環器科 60 (4) : 386-392 Cardioangiology
渡邊 哲史、許 永勝	III 冠動脈治療 / デバイス通過困難な場合の対応 ガイドカテーテルディープエンゲージ・Buddy wire テクニック・ 親子カテーテル アンカーテクニック	2010.9	カテーテル治療 Do&Don't
辻 貴史	VII 各種画像診断の用い方 / CT 良好な画像を得るための工夫・読影のポイント	2010.9	カテーテル治療 Do&Don't
辻 貴史	VIII 止血 用手圧迫・TR バンド, とめ太くん・クローザー・アンギオシール	2010.9	カテーテル治療 Do&Don't
辻 貴史	穿刺部合併症 大腿動脈アプローチの場合 (仮性動脈瘤およびシャント, 血腫に対する処置)	2012.12	心血管インターベンションエキス パート 6 合併症克服トラブルシューティング
辻 貴史、許 永勝	Parallel Wire Technique 基本	2013	Coronary Intervention Vol 9 No.6 43-48

講演・学会発表

演 者	演題名	講 演 発表日	学会・研究会名	開催地
玉井 秀男	Keynote lecture:Keynote lecture	2006.9	CCT 2006	神戸
許 永勝	The "anchor balloon" technique	2006.9	CCT 2006	神戸
許 永勝	Cypher stent post marketing study interim report	2006.9	CCT 2006	神戸
許 永勝	Starting dedicated cardiovascular special clinic	2006.9	CCT 2006	神戸
中西 基修	64 列の MDCT 基礎知識	2006.9	第 13 回京滋奈良 IVUS forum	京都

業 績

演 者	演題名	講 演 発表日	学会・研究会名	開催地
渡邊 哲史	慢性完全閉塞病変を合併した重症大動脈弁狭窄症に対し経皮的 大動脈弁形成術と経皮的冠動脈形成術を施行した一例	2007.2	第12回日本心血管インターベン ション学会 近畿支部学術集会	
辻 貴史	Clinical experience and efficacy of using retrograde approach for chronic total occlusion lesions	2007.6	JSIC 2007	福島
山本 裕子	PCI・PTA 短期入院延長の関連因子の検討	2007.6	JSIC 2007	福島
中西 基修	64列のMDCTにおける左室機能評価の有用性	2007.6	JSIC 2007	福島
辻 貴史	Impact of MSCT on CTO-PCI	2007.7	再9回 CTO club	豊橋
辻 貴史	LADのCTOに対し、retrograde approach を要した症例	2007.9	京滋奈良 IVC	京都
中西 基修	Rt SFA に対してPTAを施行した1例	2007.9	第14回京滋奈良 IVUS forum	京都
村上 和男	冠動脈CTをPCIに活かす	2007.11	中日本ライブデモンストレーション	高崎
中西 基修	64列のMDCTにおける左室機能評価の有用性	2008.1	CCT 2008	神戸
辻 貴史	How to do when pre-intervention IVUS did not cross	2008.2	CCT 2008	神戸
穴戸 尚美	看護師の放射線業務に関する意識調査	2008.2	CCT 2008	神戸
渡邊 哲史	回旋枝に対する慢性完全閉塞病変治療中に形成した左房壁血腫の 一例	2008.2	第13回日本心血管インターベン ション学会 近畿支部学術集会	
辻 貴史	バルーン拡張不能の石灰化病変に対する一対応策	2008.2	京滋奈良 IVC	京都
中西 基修	IVUSの基礎	2008.2	第15回京滋奈良 IVUS forum	京都
中西 基修	当院における冠動脈CTの現状	2008.6	Adatara Live Demonstration2008	福島
前川 正行	腎機能低下症例に対する造影剤使用において術後HD及びHDFの 施行効果における予後検討	2008.7	JSIC 2008	名古屋
辻 貴史	アプローチに難渋した、F-Fバイパス術後の総腸骨動脈CTOに対 するPTAの1例	2008.9	京滋奈良 IVC	京都
中西 基修	IVUSにてCTO入口部が困難であった一例	2008.9	第16回京滋奈良 IVUS forum	京都
福井 真一	心エコー図が左房壁血腫の診断と経過観察に有用であった1例	2008.11	第8回心血管カテーテル治療学会学 術集会	京都
村上 和男	当院におけるPCIへの3D画像支援	2008.11	第8回心血管カテーテル治療学会学 術集会	京都
玉井 秀男	Essential preparation and attitude for CTO lesions	2009.1	CCT 2009	神戸
玉西 理恵	アンギオシール（止血デバイス）使用後の再出血因子の検討	2009.1	CCT 2009	神戸
村上 和男	PCIに必要な基礎知識 CTAの基礎	2009.1	CCT 2009	神戸
中西 基修	RCAのin-Stentに対してTERUMO IVUS viewitが有効であった一例	2009.2	第17回京滋奈良 IVUS forum	京都
辻 貴史	ガイドワイヤー：症例に応じた選択、使い方	2009.4	KCJL 2009	京都
許 永勝	PCIの標準的治療手技 - 順行性 approach	2009.6	第18回日本心血管インターベンシ ョン治療学会 CVIT2009 学術集会	札幌
辻 貴史	CT application for CTO	2009.6	第11回 CTO club	豊橋
辻 貴史	IVUS Guide CTO	2009.6	第11回 CTO club	豊橋
辻 貴史	IVUS Guided PCIを要したLAD CTOの一例	2009.9	京滋奈良 IVC	京都
中西 基修	閉塞性病変に対してIVUSが有効であった2例	2009.9	第18回京滋奈良 IVUS forum	京都

演者	演題名	講演 発表日	学会・研究会名	開催地
中西 基修	当院における Coronary imaging の現状	2009.11	第 11 回 SCIC	滋賀
前川 正行	インターベンション施行時における高効率血液濾過透析の評価及び腎機能の予後検討	2009.12	第 16 回近畿臨床工学会	京都
許 永勝	How to use microcatheters(antegrade/retrograde)	2010.1	CCT 2010	神戸
辻 貴史	How to deal with coronary perforation	2010.1	CCT 2010	神戸
前川 正行	インターベンション施行時における高効率血液濾過透析の評価及び腎機能の予後検討	2010.1	CCT 2010	神戸
辻 貴史	Cypher stent 市販後調査長期成績	2010.2	第 15 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
辻 貴史	Retrograde Approach の有用性: 偉大なるインターベンションistからの最後のメッセージ	2010.2	第 15 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
大屋 秀文	SVG 経由の retrograde approach が有効であった左回旋枝 CTO の一例	2010.2	第 41 回京滋奈良 Interventional Cardiology 研究会	京都
中西 基修	DES 留置後に急性閉塞を認めた一例	2010.2	第 19 回京滋奈良 IVUS forum	京都
渡邊 哲史	Prognostic Importance of Increased Left Atrium Volume in Patients with Coronary Chronic Total Occlusion	2010.3	第 74 回日本循環器学会総会・学術集会	京都
辻 貴史	retrograde wiring に難渋した CTO 症例	2010.4	KCJL 2010	神戸
中西 基修	止血デバイスと合併症	2010.4	KCJL 2010	神戸
吉田 知草	当院の AMI クリティカルパスの有用性	2010.8	第 19 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2010 学術集会	仙台
穴戸 尚美	患者退院指導の現状と課題 - 患者アンケートと看護師の意識調査を実施して -	2010.8	第 19 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2010 学術集会	仙台
辻 貴史	重度の late acquired malapposition による VLST の一例	2010.9	京滋奈良 IVC	京都
中西 基修	Cypher Stent 留置 4 年後の TLR 施行時における IVUS 所見	2010.9	第 20 回京滋奈良 IVUS forum	京都
渡邊 哲史	Prognostic Importance of Increased Left Atrium Volume in Patients with Coronary Chronic Total Occlusion	2010.11	American Heart Association Scientific Sessions 2010	シカゴ
前川 正行	カテーテルインターベンション中における CHDF 回路の使用評価	2010.11	第 17 回近畿臨床工学会	大阪
中西 基修	心臓 CT 検査業務への関わり	2010.11	第 17 回近畿臨床工学会	大阪
大屋 秀文	Bifurcation strategy in Kusatsu Heart Center	2010	滋賀心血管インターベンション治療学会	滋賀
大屋 秀文	Bifurcation strategy in Kusatsu Heart Center	2010	The intervention seminar in Kyoto	京都
大屋 秀文	A reverse wire technique with Crusade in case of extremely angled side branch	2010	滋賀心血管インターベンション治療学会	滋賀
中西 基修	閉塞した側枝に対して IVUS が有効であった一例	2011.2	第 21 回京滋奈良 IVUS forum	京都
辻 貴史	Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusions in the Corsair Era	2011.7	第 20 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2011 学術集会	大阪
大屋 秀文	Impact of kissing balloon inflation before single stenting for LAD-diagonal true bifurcation lesions	2011.7	第 20 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2011 学術集会	大阪
渡邊 哲史	Safety and Efficacy of Epicardial Collaterals for the Treatment of Coronary Chronic Total Occlusion	2011.7	第 20 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2011 学術集会	大阪
中西 基修	CTO の逆行性アプローチにおける治療成績の変化	2011.7	第 20 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2011 学術集会	大阪

業 績

演 者	演題名	講 演 発表日	学会・研究会名	開催地
村上 和男	冠動脈石灰化について報告 ~心臓検診の勧め~	2011.7	第20回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2011 学術集会	大阪
大屋 秀文	Covered stent 留置後、ステント内血栓閉塞を繰り返した一例	2011.9	第44回京滋奈良 Interventional Cardiology 研究会	京都
中西 基修	当院における CTO 症例にする IVUS guided PCI の現状	2011.9	第22回京滋奈良 IVUS forum	京都
大屋 秀文	A case of stenting for LAD ostium using SPRINT technique -peculiarity and pitfall with trifurcation-	2011.10	第17回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
渡邊 哲史	CTO-PCI における IVUS ガイド下順行性アプローチの有効性と限界に関する検討	2011.10	第17回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
辻 貴史	Retrograde アプローチを始める: 必要な知識と技術	2011.12	KCJL 2011	京都
中西 基修	IABP の基礎	2011.12	KCJL 2011	京都
大屋 秀文	CTO の治療中冠静脈に迷入したガイドワイヤーの reentry 操作に IVUS が有効であった一例	2012.2	第18回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
辻 貴史	偽腔に留置されたステント閉塞に対し、retrograde approach にて再疎通に成功した症例	2012.2	京滋奈良 IVC	京都
中西 基修	IVUS guidance が有効であった LCX CTO の一例	2012.2	第23回京滋奈良 IVUS forum	京都
辻 貴史	石灰化病変に対する PCI 治療の実際	2012.4	KCJL 2012	京都
辻 貴史	Perfusion Balloon の過去と現在	2012.4	KCJL 2012	京都
中西 基修	comedical Live レクチャー	2012.4	KCJL 2012	京都
村上 和男	心臓健診について	2012.4	KCJL 2012	京都
安藤 洋亮	低管電圧を用いた Coronary CT の検討	2012.4	KCJL 2012	京都
大屋 秀文	Is there any advantage of kissing balloon pre-dilatation comparing to sequential pre-dilatation for provisional stenting in non-left main bifurcation lesions?	2012.7	第21回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2012 学術集会	新潟
渡邊 哲史	慢性完全閉塞病変に対する冠動脈インターベンションにおける血管内超音波ガイド下順行性アプローチの有用性と限界に関する検討	2012.7	第21回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2012 学術集会	新潟
大屋 秀文	治療に難渋した糖尿病合併重症三枝病変の一例	2012.9	第46回京滋奈良 Interventional Cardiology 研究会	京都
中西 基修	Crush した Stent を IVUS guidance で wiring し再拡張に成功した一例	2012.9	第24回京滋奈良 IVUS forum	京都
大屋 秀文	偽腔に留置されたステント閉塞に対し、retrograde approach にて再疎通に成功した症例	2012.10	第19回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	京都
渡邊 哲史	CTO-PCI 時のガイドワイヤーによる側副血行路損傷について考察	2012.10	第19回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	京都
村上 和男	心臓検診の勧め	2012.10	第19回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	京都
中西 基修	当院における CIN 対策の現状	2012.10	第19回近畿臨床工学会	和歌山
大屋 秀文	RV channel を介した retrograde approach の2症例	2012.11	K-VIC	大阪
辻 貴史	CTO lesion - retrograde approach	2012.11	CCT 2012	神戸
中西 基修	PCI 中のガイドワイヤーによる冠動脈穿孔に対する自家製血栓塞栓の止血効果と予後検討	2012.11	CCT 2012	神戸
前川 正行	止血デバイスの安全性	2012.11	CCT 2012	神戸

演 者	演題名	講 演 発表日	学会・研究会名	開催地
宍戸 尚美	カテ室における医療安全の取り組み	2012.11	CCT 2012	神戸
安藤 洋亮	低管電圧を用いた冠動脈造影 CT の冠動脈病変における IVUS 所見の比較検討	2012.11	CCT 2012	神戸
大屋 秀文	中枢性 SAS を伴う心不全と閉塞性 SAS を伴う心不全に ASV が有効であった 2 症例	2012.12	滋賀県循環器疾患研究会	滋賀
清水 愛	心臓カテーテル検査・治療を受ける患者への禁煙支援 - 短期入院における禁煙へのきっかけ作り -	2012.12	滋賀県看護協会看護学会	滋賀
辻 貴史	CTO 治療における antegrade IVUS-guided parallel wire technique の成功の要因の検討	2013.2	京滋奈良 IVC	京都
大屋 秀文	2 回目の antegrade approach にて recanalization しえた LAD CTO の一例	2013.2	第 20 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
大屋 秀文	Impact of pre-dilatation using the kissing balloon technique on clinical outcomes in true coronary bifurcation lesions	2013.3	第 77 回日本循環器学会 学術集会	横浜
大屋 秀文	Impact of pre-dilatation using the kissing balloon technique on clinical outcomes in true coronary bifurcation lesions	2013.4	18th cardiovascular summit TCTAP2013	ソウル
大屋 秀文	Clinical outcomes of Zotarolimus-eluting stents implanted in diabetic patients; A Kusatsu Heart Center experience	2013.4	18th cardiovascular summit TCTAP2013	ソウル
許 永勝	止血デバイス	2013.4	KCJL 2013	京都
中西 基修	スワンガンツカテーテルと心不全	2013.4	KCJL 2013	京都
安藤 洋亮	低管電圧を用いた冠動脈造影 CT の冠動脈病変における IVUS 所見の比較検討	2013.4	KCJL 2013	京都
中西 基修	画像ネットワークとデータベース	2013.6	Adatara Live Demonstration2013	福島
大屋 秀文	Angiographic anatomical determinants of unsuccessful epicardial channel crossing in retrograde CTO PCI	2013.7	第 22 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2013 学術集会	神戸
大屋 秀文	Which is better epicardial channel for retrograde CTO PCI? From the expert's view on angiographic anatomical features	2013.7	第 22 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2013 学術集会	神戸
中西 基修	PCI 中のガイドワイヤーによる冠動脈穿孔に対する自己血栓による止血効果と予後検討	2013.7	第 22 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2013 学術集会	神戸
宍戸 尚美	待機的 PCI を受ける患者看護の標準化 - 入院から退院まで -	2013.7	第 22 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2013 学術集会	神戸
細川 良介	当院における東芝製 1.5 テスラ MRI 装置 vantage titan の使用経験	2013.7	第 22 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2013 学術集会	神戸
安藤 洋亮	CTO PCI における CTCA virtual roadmap の有用性	2013.7	第 22 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2013 学術集会	神戸
大屋 秀文	Calcified proximal cap の penetration にバルーン拡張が有効であった分岐部 LAD CTO の一例 玉井賞受賞	2013.9	第 48 回京滋奈良 Interventional Cardiology 研究会	京都
辻 貴史	冠動脈穿孔の対処法	2013.10	第 21 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
安藤 洋亮	MRI を導入して -CT との使い分け-	2013.10	第 21 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
中西 基修	心臓の解剖と冠動脈	2013.10	CCT 2013	神戸
辻 貴史	IVUS-guided Antegrade Parallel Wire Technique	2013.10	CCT 2013	神戸
辻 貴史	Coronary perforation during PCI	2013.10	CCT 2013	神戸

業 績

演 者	演題名	講 演 発表日	学会・研究会名	開催地
辻 貴史	高度石灰化病変に対する治療戦略	2014.2	第 22 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
大屋 秀文	Successful penetration of proximal cap of CTO by using cutting balloon	2014.4	19th Cardiovascular summit TCTAP2014	ソウル
中西 基修	IVUS leading	2014.4	KCJL 2014	京都
中西 基修	合併症対策	2014.6	Adatara Live Demonstration2014	福島
大屋 秀文	Comparison of angiographic morphological features of epicardial collateral channels according to cardiac chamber	2014.7	第 23 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2014 学術集会	名古屋
宍戸 尚美	心臓カテーテル治療を受ける患者の入室から治療前の対応 - 安全・清潔面の工夫 -	2014.7	第 23 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2014 学術集会	名古屋
細川 良介	1.5T MRI 装置を使用した非造影冠動脈撮像の呼吸同期及び撮像パラメータの検討	2014.7	第 23 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2014 学術集会	名古屋
渡邊 哲史	新たな放射線被爆軽減システム「DTS (Dose Tracking System)」の有用性	2014.10	第 23 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
細川 良介	1.5T MRI 装置を使用した非造影冠動脈撮像の呼吸同期及び撮像パラメータの検討	2014.10	CCT 2014	神戸
中西 基修	ガイドワイヤーの合併症	2014.10	CCT 2014	神戸
玉西 理恵	カテ室における看護師教育の確立を目指して	2014.10	CCT 2014	神戸
辻 貴史	心不全で発見された LMT 閉塞の一例	2015.2	京滋奈良 IVC	京都
安藤 洋亮	1.5T MRI 装置を使用した非造影冠動脈撮像の呼吸同期及び撮像パラメータの検討	2015.2	第 24 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
中西 基修	マイクロ貫通カテーテルの使い方	2015.4	KCJL 2015	京都
中西 基修	心血管治療領域におけるシンポジウム	2015.5	第 25 回日本臨床工学会	福岡
中西 基修	ガイディングカテーテル・ガイドワイヤー	2015.6	Adatara Live Demonstration2015	福島
細川 良介	1.5T MRI 装置を用いた非造影冠動脈撮像における矢状断面収集の有用性の検討	2015.7	第 24 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2015 学術集会	福岡
福井 真一	当院における 1.5T MRI 装置と超音波装置においての左室駆出率	2015.7	第 24 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2015 学術集会	福岡
中西 基修	ガイドカテーテル	2015.9	SLDC 2015	札幌
辻 貴史	真腔と偽腔に平行して留置されたステントのため、治療に難渋したステント内慢性完全閉塞の一例	2015.10	京滋奈良 IVC	京都
辻 貴史	心不全で発見された LMT 閉塞の一例	2015.10	第 25 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
中西 基修	心電図 虚血性変化	2015.10	第 25 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪
中西 基修	こんなにあるのか PCI カテーテル	2015.10	CCT 2015	神戸
安藤 洋亮	下肢 MRA にて stent 内腔が評価可能であった症例	2015.10	CCT 2015	神戸
辻 貴史	真腔と偽腔に平行して留置されたステントのため、治療に難渋したステント内慢性完全閉塞の一例	2016.2	第 26 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪

開院 10 周年記念誌

発行日 平成 28 年 3 月 26 日

編 集 草津ハートセンター

印 刷 株式会社スマイ印刷